

# 景観の総合資料学

## — 漁場図を読む 2 —

日程 2020年12月12日(土)13:00~17:30

会場 オンライン開催 (神奈川大学横浜キャンパス3号館305教室)

### [プログラム]

#### 趣旨説明

安室 知 (神奈川大学日本常民文化研究所長)

「石丁場——技術の進歩と景観の変化」松田睦彦 (国立歴史民俗博物館)

「北山林業と民家の庭——京都市中川地区における文化的景観調査から」

恵谷浩子 (奈良文化財研究所)

「消費から漁撈を考える——琵琶湖のフナズシをめぐる」

橋本道範 (滋賀県立琵琶湖博物館)

「エリの造形と分布——「鮎税取調帳」から読む歴史」

安室 知 (神奈川大学日本常民文化研究所)

#### 総合討論

**第24回 常民文化研究講座**

# 景観の総合資料学

## — 漁場図を読む 2 —

2020年12月12日[土]  
13:00~17:30 オンライン開催 **参加無料**  
事前申込み

**趣旨説明** 安室 知 (神奈川大学日本常民文化研究所長)

- 松田 睦彦 (国立歴史民俗博物館) **石丁場——技術の進歩と景観の変化**
- 恵谷 浩子 (奈良文化財研究所) **北山林業と民家の庭——京都市中川地区における文化的景観調査から**
- 橋本 道範 (滋賀県立琵琶湖博物館) **消費から漁撈を考える——琵琶湖のフナズシをめぐる**
- 安室 知 (神奈川大学日本常民文化研究所) **エリの造形と分布——「鮎税取調帳」から読む歴史**

**総合討論**  
\*趣旨説明とは、異なるものを集めておきます。

お申込み・お問い合わせ  
申込方法 第24回講座 申込受付は特別の申し込みフォームから開始し、jcmjken.kanagawa-u.ac.jp/2020/12/12/ から申し込みをお願いします。  
申込料 Zoomの接続料を別添いでオンライン開催いたします。  
申込料は申し込み完了後にメールにて「申込料」メールが届きますのでご確認ください。

申込日 12月7日(月)12:00まで  
申込先 神奈川大学常民文化研究所 TEL: 045-481-5661 (内) Fax: 045-481-4131  
お問い合わせ 神奈川大学常民文化研究所 TEL: 045-481-5661 (内) Fax: 045-481-4131  
http://jomjken.kanagawa-u.ac.jp/

第24回 常民文化研究講座

# 景観の総合資料学

## — 漁場図を読む 2 —

本講座は、常民文化研究所「地域・農村の景観史に関する総合的研究」の一環として企画されています。常民文化研究講座としては、すでに2015年に「景観史」をテーマとし、第1回をおこなっており、その報告は『歴史と景観』33号に掲載されています。

今回は景観に限定せず、広く生態空間としての自然環境の利用について、歴史学にとどまらず民俗学や植物学などさまざまな学際分野から景観の変遷を切り口に議論することとしました。そのため、各講師の発表は、手法や論点、対象が多岐にわたることで都市空間を含めた議論がなされます。

### 講師プロフィール

- 松田 睦彦 (国立歴史民俗博物館) 史学博士  
『日本の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年)
- 恵谷 浩子 (奈良文化財研究所) 民俗学博士  
『宇治の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年)
- 橋本 道範 (滋賀県立琵琶湖博物館) 民俗学・日本学博士  
『日本の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年)
- 安室 知 (神奈川大学日本常民文化研究所) 史学博士  
『日本の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年) / 『徳島県の民俗的風景—宇治—』(著) 中央公論新社(2018年)

主催 神奈川大学日本常民文化研究所  
〒221-8686 神奈川県横浜市中区磯子区3-7-1  
Tel: 045-481-5661 (内) http://jomjken.kanagawa-u.ac.jp/

写真1 パンフレット

## 「景観の総合資料学」参加記

安室 知

本講座は、常民研の基盤共同研究「海域・海村の景観史に関する総合的研究」（2015年－現在）の一環として企画されたもので、常民文化研究講座としてはすでに2015年に「“漁場図”を読む」と題し第1回をおこなっている。その報告は『歴史と民俗』33号に特集として掲載されている。

今回は、第1回目のように討論の対象を「漁場」に限定せず、広く生業空間としての山野河海の利用について、文献史学や民俗学、造園学などさまざまな学問分野から景観の変遷（景観史）を切り口に論じられた。そのため、各講師の発表は、手法や論点、対象が多岐にわたり、ときに都市空間を含めた議論がなされた。

最後の総合討論においては、論点として、①「景観」とは何か、②「景観」を資料とすることの意義、③「景観」を切り口に研究することの面白さ、を設定して学際的な討論がなされた。また、発表者間での遣り取りとともに、参加者（聴衆）からの質問に対しても、活発な質疑応答がおこなわれた。

当日のプログラムは以下の通りである。

趣旨説明 安室 知（神奈川大学日本常民文化研究所）

発表1. 「石丁場——技術の進歩と景観の変化」

松田陸彦（国立歴史民俗博物館）

発表2. 「北山林業と民家の庭——京都市中川地区における文化的景観調査から」

恵谷浩子（奈良文化財研究所）

発表3. 「消費から漁撈を考える——琵琶湖

のフナズシをめぐる」 橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館）

発表4. 「エリの造形と分布——「魎税取調帳」から読む歴史」 安室 知（常民研）

総合討論

なお、本年度の常民文化研究講座はコロナ禍にあっちはじめてオンライン開催となり、必然的に講座後の情報交換会は取り止めとなった。



写真2 オンライン開催での会場風景



写真3 松田陸彦氏



写真4 橋本道範氏



写真5 発表者との記念撮影